

ビジネスに必要なPDF



商品やサービスに関わる情報
確実なセキュリティシステム
判断を仰ぐ決裁手段



効率的な業務処理

クリエイティブに必要なPDF



コンセプトを反映した写真
テイストが重要なイラスト
意図を感じさせるデザイン



細部まで正確な表現物

役割に応じて 作成するPDF

3

自分の仕事を自分で決裁できるのは芸術家だけ。

発注者のチェックを受けない仕事は
ビジネスシーンでは有り得ない。

プリプレスに必要なPDF



プリフライトや検版できる校正
そのまま出力できる印刷原稿
手間がかからない送稿手段



間違いのない完全データ

どんな業務を行なっている、必ず上司やクライアントのチェックを受けなければ、次の工程や段階に進むことはできない。しかも、グラフィック制作物には多様な担当者が関与し、種類の異なる要素が組み込まれる。

写真やイラストのように感覚的な情報でも、価格や製品仕様のような文章や数値でも、それぞれの担当者が適切な情報を提供しなければチェックは成立しない。一人ひとりが自分の業務に応じたPDFを作成しなければならないのだ。

ラスターデータから作成するPDF

- ◎撮影した写真や合成した画像、作成したイラストレーションはPhotoshop PDFでチェックする。
- ◎Adobe Bridgeを使えば、すべてのファイルを自動的にPDFに書き出せる。
- ◎スタジオ撮影やロケーションの現場で解像度を下げて圧縮すれば、インターネットでやり取りできる。
- ◎PDFならば、わざわざコンタクトシートを作らなくても一覧表示できる。

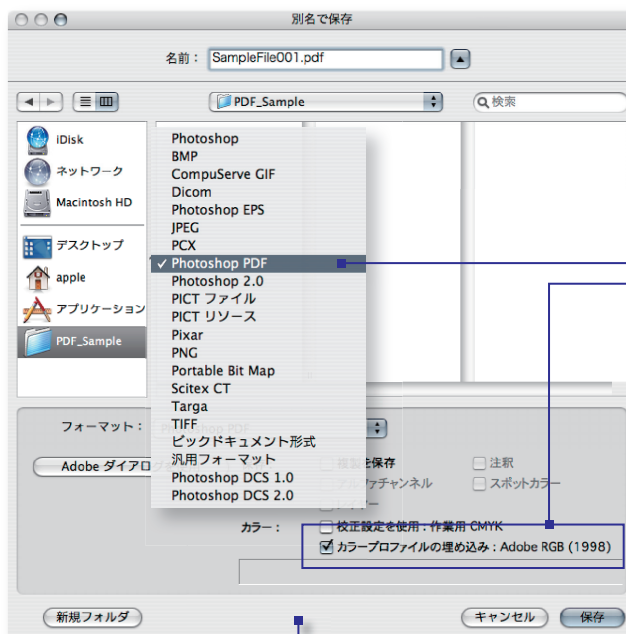
■Photoshop CS3から保存

四角い画素(ピクセル)で構成されている画像をラスターデータといい、Photoshopのようなペイント系のアプリケーションの保存形式となっている。

撮影した写真や合成した画像、作成したイラストレーションなどのラスター画像は、Photoshopで画像を開いて「別名で保存」によってPhotoshop PDFとする。解像度と圧縮方法を調整すれば軽いファイルにできるので、遠隔地にいる担当者でもインターネットを介してすぐにチェックできる。

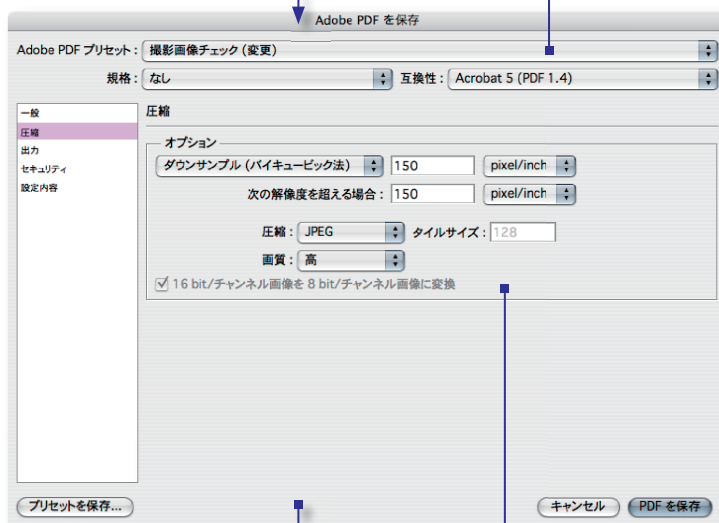
■Photoshop PDFで納品

一般的に撮影画像はTIFFファイルで納品されるが、Photoshop PDFで納品する方法もある。可逆圧縮のZIPに設定すれば画像が劣化することはない。再びPhotoshopファイルに戻せるし、非可逆圧縮でも支障がないならば、圧縮率の高いJPEG圧縮を選択する方法もある。



別名で保存を選択した後で、フォーマットを「Photoshop PDF」にする。色基準を明確にするために「カラープロファイルの埋め込み」にチェックを入れる。

Adobe PDFプリセットからPDF設定を選ぶか、手でオプションを設定する。



ここで圧縮方法や画質を切り替える。

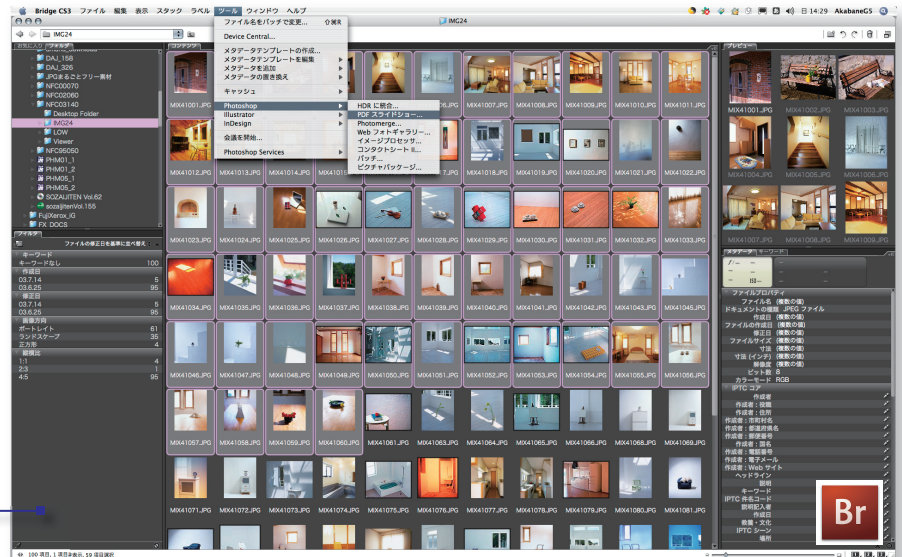


Photoshop PDFファイルは、通常のPDFと異なりアイコンが青い。

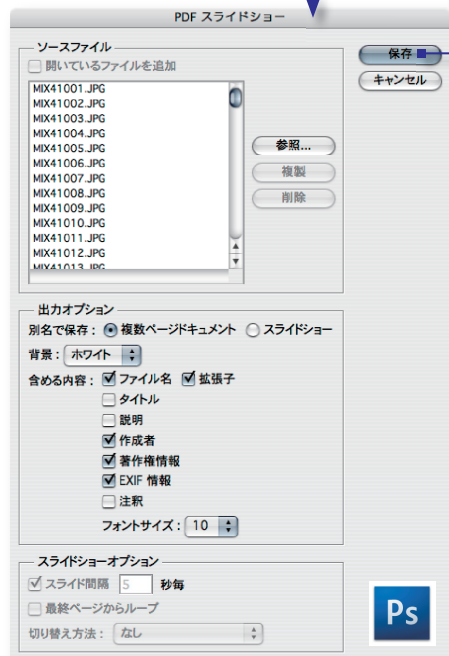
■PDFスライドショー

Bridgeからファイルやフォルダを選択して、メニューバーのツールからPhotoshop>PDFスライドショーを選べると、すべてのファイルを自動的にPhotoshop PDFに変換する。

ファイル数が多くても1ファイルにまとめられるので、アートディレクターや編集者などはチェックしやすい。モデル撮影のようにカット数が多い場合でも全く手間がかからない。



↑ Bridgeでファイルを選択し、ツールからPhotoshop>PDFスライドショーを選ぶとPhotoshop CS3が起動して保存ダイアログを表示する。

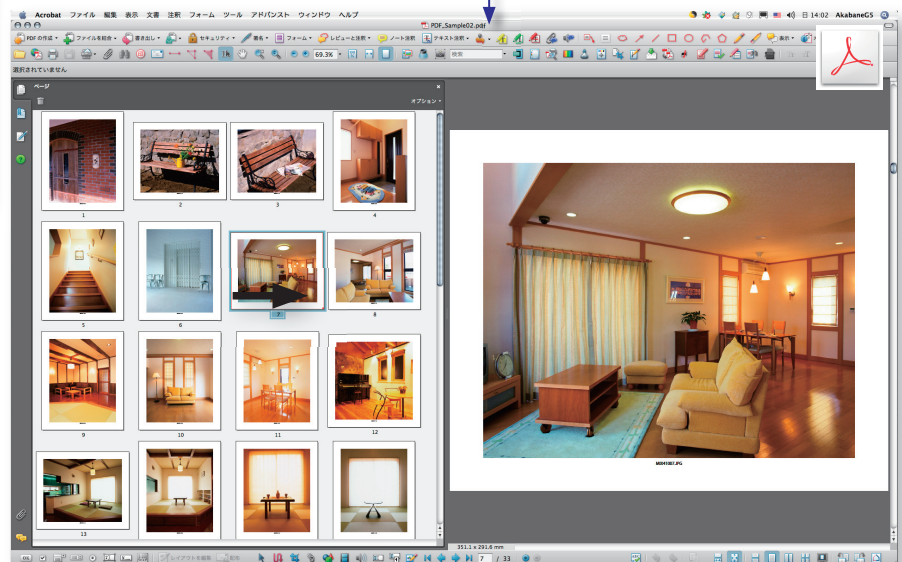


↑ 選択しているファイルがソースに表示される。複数ページドキュメントを選択して保存をクリックすると、オプション設定ダイアログが表示される。Bridgeを使わずにPhotoshopのメニューバーからファイルを選び、自動処理>PDFスライドショーでも同じ変換を行なえる。

→ 作成されたPDFをAcrobatで開くと、一覧表示も行なえるのでチェックしやすい。



別名で保存する場合と同様に、PDF設定はAdobe PDFプリセットから選ぶか、手で設定できる。



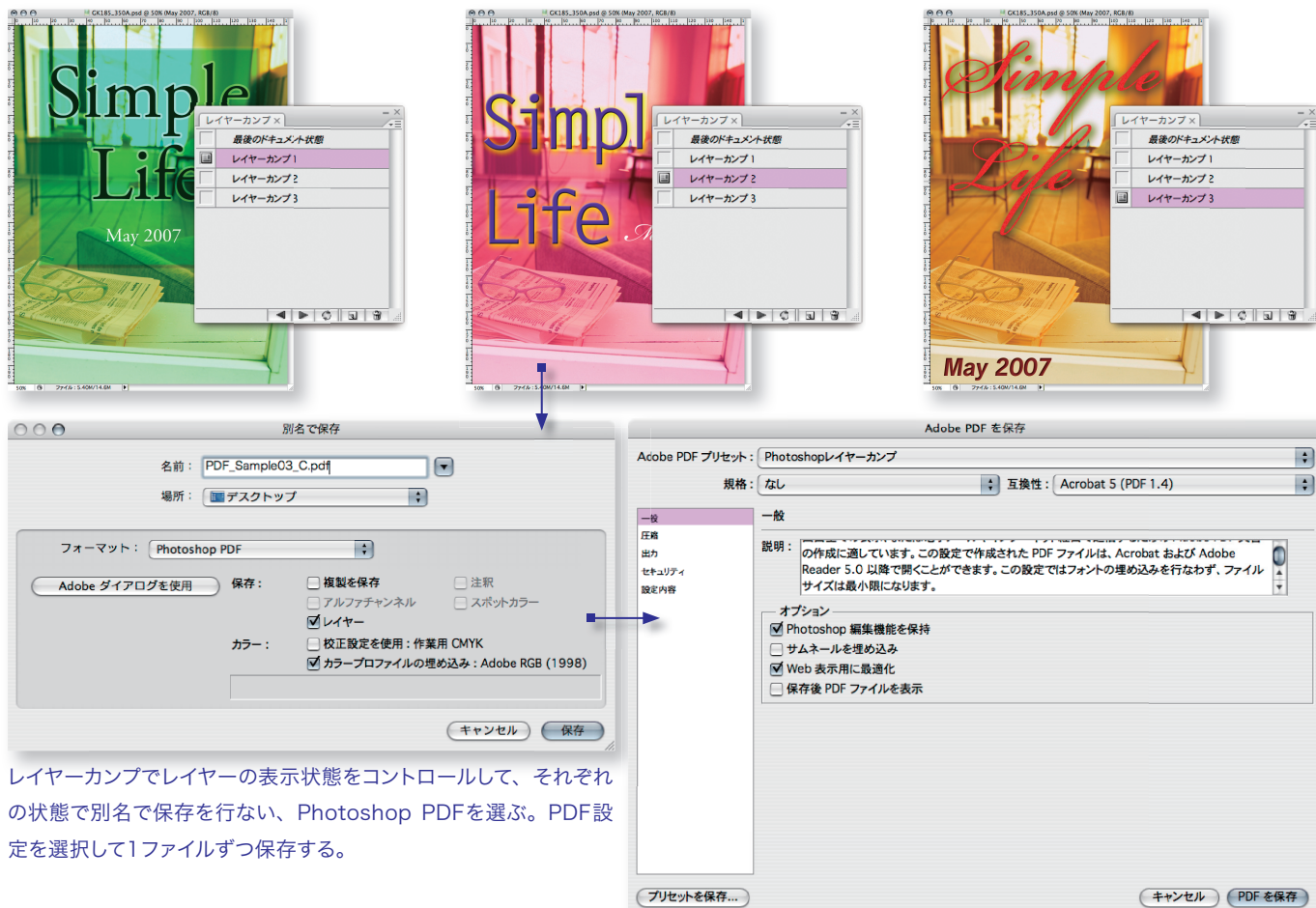
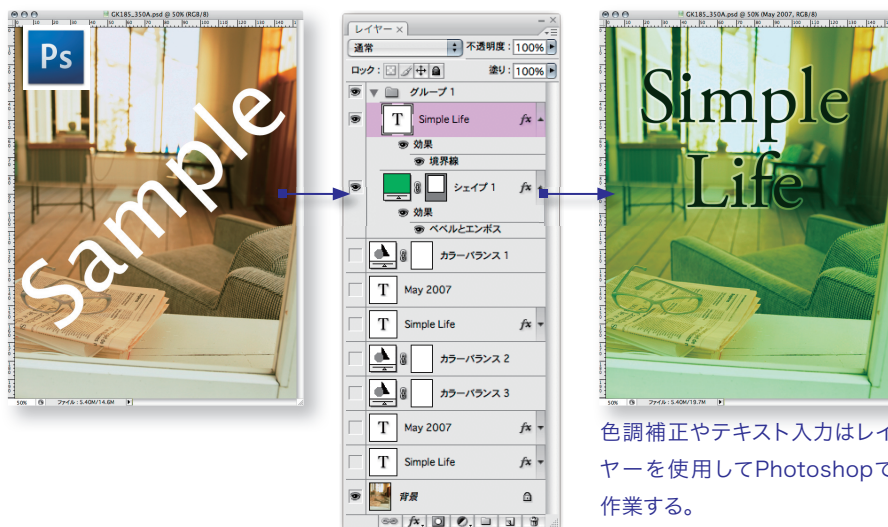
撮影画像や画像処理のチェックでは膨大なカット数となるが自動処理でPDFに書き出して、1ファイルに統合できる。

カンパや画像合成したファイルの保存

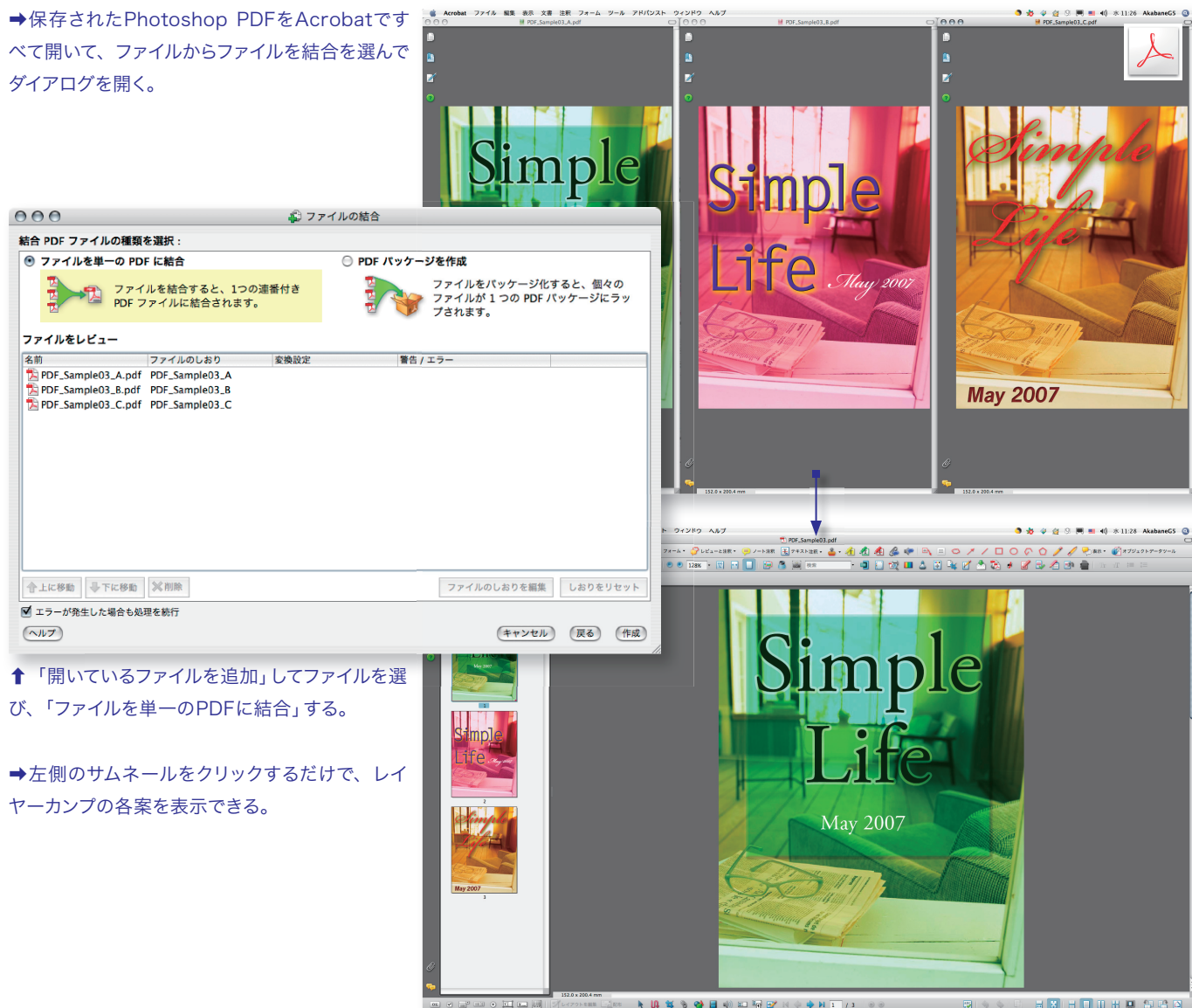
- ◎画像の加工はPhotoshop の調整レイヤーやレイヤースタイルで行なう。
- ◎Photoshop のレイヤーカンパを使い分けると、複数案のPDFも簡単に作成できる。
- ◎バラバラのPDFでもファイルの結合を行なえば1ファイルに統合できる。
- ◎Photoshop編集機能を保持したPDFならば、再度Photoshopで編集できる。

■レイヤーカンパを使って別名で保存

調整レイヤーやレイヤースタイルでいくつかの案を作成している場合などは、レイヤーカンパ機能を使えば元のPhotoshopファイルはそのままPhotoshop PDFを書き出せる。複数案を1ファイルにまとめれば、バリエーションを簡単に提示できる。



→保存されたPhotoshop PDFをAcrobatですべて開いて、ファイルからファイルを結合を選んでダイアログを開く。



029

↑「開いているファイルを追加」してファイルを選び、「ファイルを単一のPDFに結合」する。

→左側のサムネールをクリックするだけで、レイヤーカンプの各案を表示できる。

■PDFをPhotoshopで開く

一旦Photoshop PDFに保存した場合でも、再度Photoshopで開いて編集できる。特に、プリセットのオプションにある「Photoshop編集機能を保持」にチェックを入れておけば、調整レイヤーなどの機能を維持したまま再編集が可能になる。



複数ページのPDFでも、開く時にページを選択できる。

レイヤーカンプを上手く使えば、複数案のカンプをPDFに書き出せる。
Photoshopから書き出したPDFは再度Photoshopで編集できる。

3.2

イラストレーションやデザインパーツのチェック……

ベクター画像から作成するPDF

- ◎Illustratorでイラストやパーツを作成した場合は、「別名で保存」によってPDFを書き出す。
- ◎原稿の中にラスター画像が使われている場合は、画像圧縮の設定を行なう。
- ◎IllustratorのレイヤーをそのままPDFで保持することも可能。
- ◎PDFがIllustratorの編集機能を保持していれば、再編集できる。

■Illustratorから保存

座標を元に数値で作画を指示するプログラムをベクターデータといい、Illustratorのようなドロー系のアプリケーションの保存形式となっている。

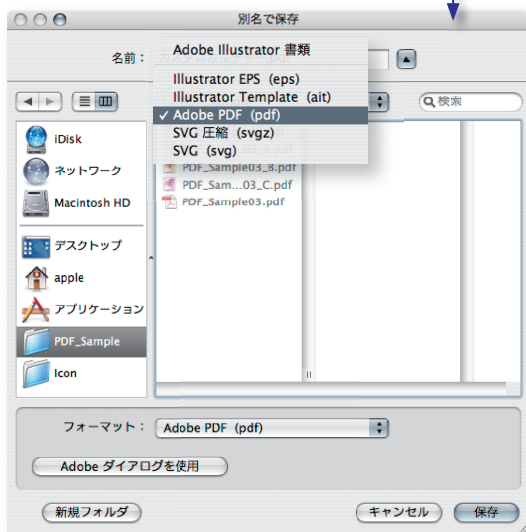
Illustratorで作成したファイルは、「別名で保存」によってPDFを書き出すが、原稿の中にラスター画像が使われている場合は、画像圧縮も行なえるので、用途に応じてプリセットを選択する。

透明効果を使用している場合は、PDF1.4以上で透明をそのまま維持する方がファイル容量が大きくなりな上に、意図しない分割・統合が行なわれないので安心だ。

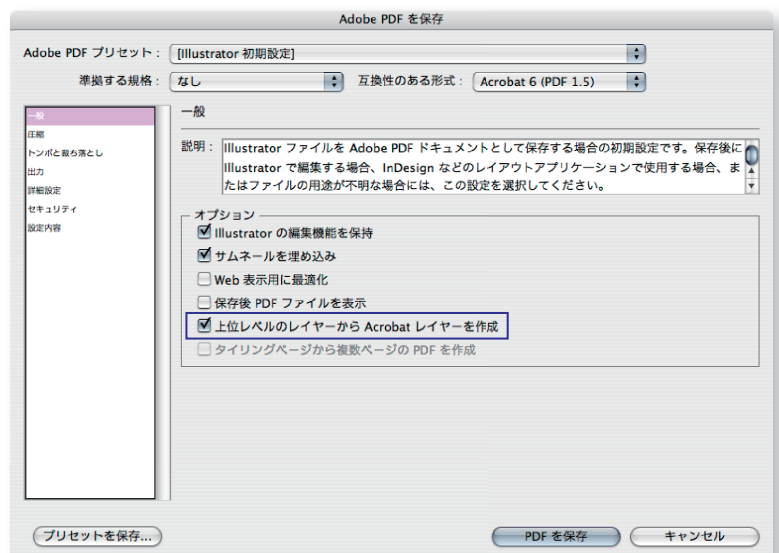


イラストレーションや地図、図面では作業をやすくするためにレイヤーを多用する。細部まで確認するためには、表示を切り替えられる方が間違いを起こしにくい。

イラストレーション：©アドビ システムズ



IllustratorからPDFを作成するには「別名で保存」でAdobe PDFを選択するだけ。



レイヤーを残す場合は互換性をPDF1.5にして、Acrobatレイヤーを作成にチェックを入れて保存する。PDF/X-1aもプリセットを選ぶだけで保存できるので、印刷用の完全データも手間なく作成できる。



レイヤーを活かしたPDFの可能性

レイヤーは表示内容を切り替える利便性だけではない。ISOの新しい印刷用フォーマットPDF/X-4では、レイヤーを利用できるルールになっている。このレイヤー部分に異なる言語のテキストを組み込んだり、何種類もの写真を組み込んで、自動的に可変させて印刷できるようになる。紙メディアでも細分化したコミュニケーションを実現できるのだ。

■レイヤーを保持したPDF

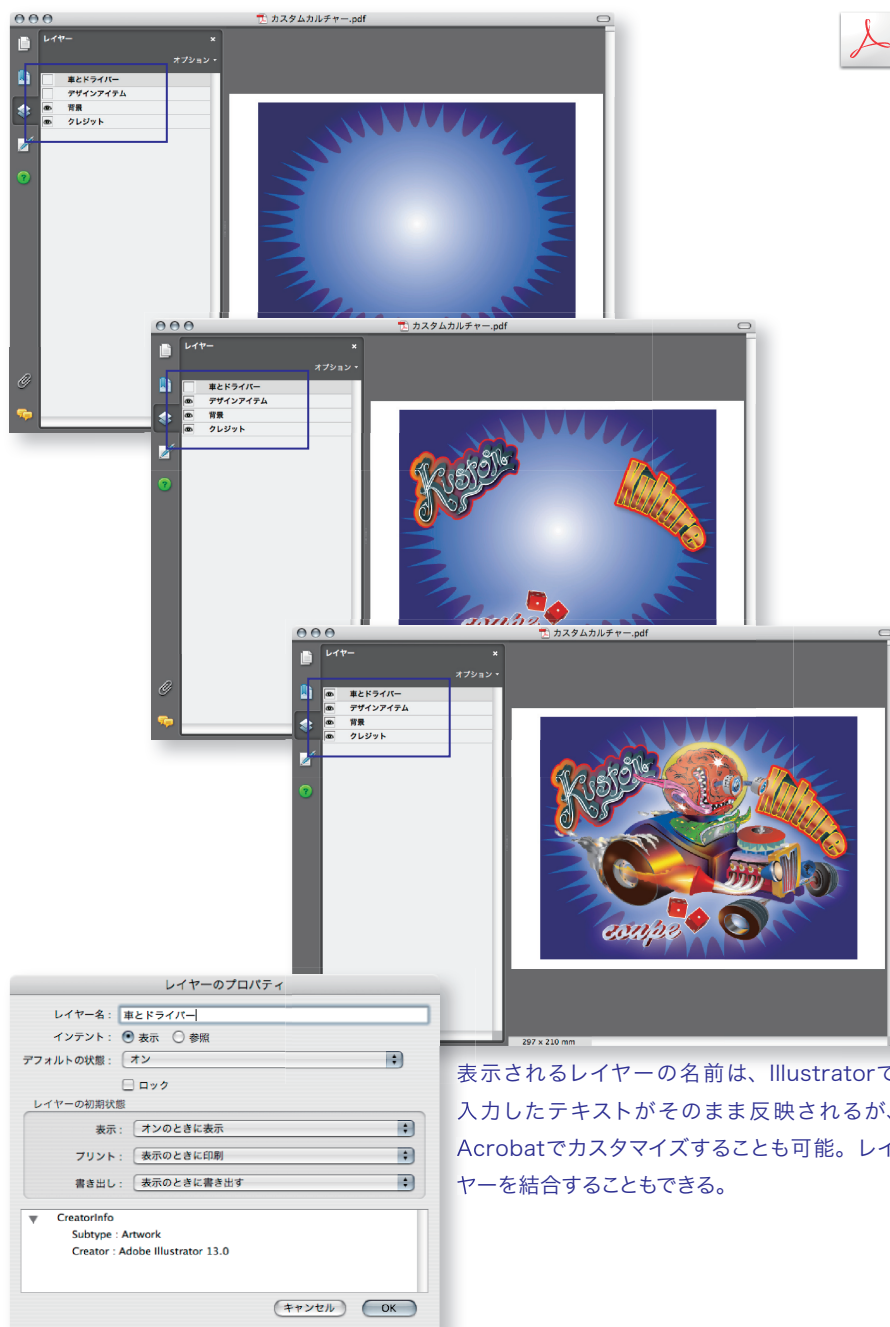
互換性のある形式をPDF1.5以上にと、オプションの「上位レベルのレイヤーからAcrobatレイヤーを作成」が使えるようになる。

この保存方法では、使用していたレイヤーをそのままPDFでも保持できる。イラストレーション以外にも地図や複雑な設計図などのチェックには有効な機能だ。Acrobatのナビゲーションパネルでレイヤーを表示して、左側の目のアイコンで表示と非表示を切り替える。

■PDFで納品

一般的にイラストレーションなどはIllustratorファイルで納品されるが、PDFで納品するメリットもある。不用意な変更を防止したり、セキュリティをかけたたりできる。

InDesignではPDFをそのまま配置できるのでPDFで納品しても特に不都合もない。また、オプションで「Illustratorの編集機能を保持」していれば、再編集が可能になる。



表示されるレイヤーの名前は、Illustratorで入力したテキストがそのまま反映されるが、Acrobatでカスタマイズすることも可能。レイヤーを結合することもできる。

**Illustrator形式のままでは変更を加えられる可能性があるが
PDFならば安心してファイルを渡せる。**

テキストから作成するPDF

- ◎文章チェックにもWordなどのネイティブファイル形式ではなく、PDFを活用すべき。
- ◎プリント機能さえあれば、どんなアプリケーションでもAcrobatで作成できる。
- ◎PDFなら文字化けや知らぬ間の変更、勝手な転用を防ぐことができる。
- ◎レイアウトを維持したままでも、文章だけでもInCopyならPDFを直接書き出せる。

■文章もPDFでチェック

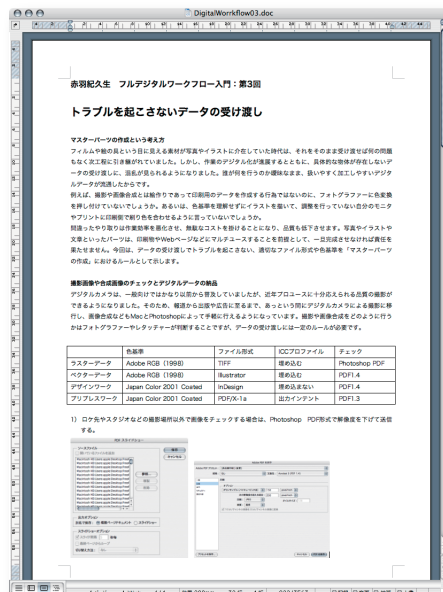
文章をチェックする場合にもWordやテキストファイルではなく、PDFを活用すべきだ。Wordやテキストファイルだと、OSなどの環境によって文字化けを起こしたり、知らぬ間に変更を加えられたり、勝手な転用を行なわれてしまう可能性がある。

また、広告におけるコピーはビジュアルでもあるから、書体や文字組などの見た目を維持すれば、自分の意図をクライアントやアートディレクターに伝えることができる。

あるいは、スペックなどの製品やサービスに関連する内容は、様々な部署のチェックが必要となるが、PDFならAcrobatを使用して複数の注釈を混乱なくハンドリングできる。

■Acrobat経由で書き出す

テキストの作成にはWordなどのビジネスソフトが使用されるが、AcrobatをインストールしていればPDFを書き出せる。プリントダイアログの「プリンタ」でAdobe PDFを選択してプリントするだけだ。プリント機能さえあれば、どんなアプリケーションでもこの方法でPDFを作成できる。



←「プリンタ」でAdobe PDFを選び、プリントするだけでPDFを作成できる。ページ設定などは通常のプリントと変わらない。

↓PDFオプションを表示すると、Acrobat Distillerなどであらかじめ設定してあるプリセットをAdobe PDF設定で選択できる。

